

加賀藩の胃工であつたが、弘は學を好み、業をその弟に譲り、處士となつて昌平黌に學ぶこと七載、又洛に轉じて頼襄に従ふ」と三年、大に詩文を能くするに至つた。天保五年藩校の句讀師に任じ、十年改めて訓導と爲り、弘化元年新番に列して假助教に進んだが、後又處士となつて育英を業とし、安政三年三月五日歿した。

ツルミサモン 鶴見左門 前田利長に仕へて八百石を領した。子孫世々藩に仕へたが、その嫡系は九代米女孝次に至り、三百石を領し、文政五年九月十八日亡氣の体で知行を召放され、十人扶持を賜うて断絶した。

ツルミソウジュ 鶴見宗壽 通稱助九郎。文政中明珍宗好の門に學んだ胃工で、藩より三人扶持を受けた。二代清藏宗純その技を能くし、三代市郎兵衛宗春は宗純の弟で、面頬を作るに長じて居た。

ツルミタカズミ 鶴見高澄 大聖寺藩士。初名又太郎、後傳助。その先世大聖寺侯に仕へたが、祖父又八郎の時事に座して祿を失ひ、越前大野に退いて山上茂兵衛と稱した。父傳内その家を承け、恒に舊君を忘れずして傳助に遺囑する所あつた。傳助乃ち劍槍を學んでその奥妙に達し、遂に大聖寺に歸つて舊祿を復することを得た。文政十年四月廿六日病歿、享年八十。子六郎その家を襲いだ。

ツルミノリカツ 鶴見憲勝 通稱平八、初め奥村尙寛の臣となり、寛政七年明倫堂助教を命ぜられ、新知九十石を興へられ、儒者に列し、後又五十石を加へた。憲勝は新井祐登の高弟であつたから、祐登は易學をその子篤光に授けずして、これに傳へたといふ。天保

元年歿。
ツルミノリヨシ 鶴見憲好 憲勝の子。一諱憲親。通稱守衛、字は子興。亦易學を以て専門とした。文政九年新番に班し、學校讀師加人に補し、天保元年儒者に列し、讀師本役となつた。

ツルヤククウ 鶴屋句空 金澤の俳人。卯辰山に柳陰軒又は柳庵を結んで隠棲してゐた。北の山・杵原集・艸庵集・干綱集を出し、北枝と共に卯辰集を著した。正徳二年の布ゆかた集に句空を六十五とある外、逝去等に就いては知るを得ぬ。

ツルヤツネマル 鶴屋常丸 金澤の俳人。初號龜岩。曾魚の後を受けて子母川亭と稱し、後又その人日庵を襲いだ。通稱伊兵衛、百姓町に住して小間物を商ひ、明治廿二年八月十一日七十九歳を以て歿した。

ツルヤヨソエモン 鶴屋與三右衛門 石川郡宮腰の人。越賀雜記一卷・諸宗佛閣記十二卷を作つた。與三右衛門は宮腰町奉行馬淵高定と時を同じくするから、寶永・享保前後の人である。

ツルヲジリ 鶴尾尻 鹿島郡田鶴濱のうちの小字であつたが、明治中から獨立の部落とした。
ツレツレグサシヨウウタイセイ 徒然草諸抄大成 二十冊。淺加久敬著。徒然草の集註で、壽命院抄・野相・貞徳抄・盤齋抄・句解・諸家聞書・文段抄・諺解・慰草・古今抄・増補鐵槌・大全・参考等の諸抄を悉く頭書或は傍註にしたもの。貞享五年上梓。

ツエ 杖 能美郡白山下に屬する部落。享保五年の書上に、昔は杖村と書き、幕府領に

なつて津江村と改めたとあるが、今は矢張り杖と書いてゐる。前記書上には、古へ川縁が常に崩れたから、岸破地動村と書いてツエ村と訓ませたとあるが、それは信じ難い。
ツエガハ 杖川 能美郡大日山の東方溪谷より發し、杖の部落を過ぎ、三ノ瀬の東方に於いて大日川に合する。

ツエツキ 杖突 日備人足中一團體の指揮に當るものをいうた。割場御定書萬治三年のものに、「日用杖突と申は、二十人に一人宛、直段平日用同事御座候。食番は百人に一人充御座候。但杖突相立候儀、品により十五人より上之人數には、一人充杖突相立申事茂御座候事。」と見える。

ツエノサキ 杖のさき 一冊。津輕の俳人郡因著。延享二年十月武江東門子板。編者が希因を金澤に訪れた時の附合、並びに加能越人の句と文通とを集めたもので、郡因とは建部涼俗の初號である。

テ

テアゲタカ 手上高 藩政の時、田島の畦畔・荒地等を開拓し、又は先に變地引高になつたものを復舊した時、從來の村高以外に、百姓自身から草高の増加登録を出願することはいひ、それに隨うて藩の租入が増加するわけである。手上高は百姓の自發的に申出るを本義とするが、多くは藩の徳意によりて行はれた。
テアゲメン 手上免 藩政の時、田地の地

味改善せられ、收穫常に増加するに至つた時、百姓自身の請願によつて増納する免相をいふ。定免以外別に手上免幾つ何歩と名目を立て、藩の租入をそれだけ増すのである。手上高と共に藩の勧誘に因る場合が多かつた。
デアヒ 出合 能美郡もと二曲及び清水の二部落を明治年間に合したもので、その二曲を上出合、清水を下出合といふこともある。

デアヒジマ 出合島 能美郡山上郷に屬する田子島新と興九郎島新との惣稱で、石川郡運上島との入會地であつたから、明治廿四年之を石川郡の地籍に移し、すべて出合島と稱することにした。
デアヒヤ 出合屋 また出合宿ともいふ。婦女を媒合する家業で、藩の法令により屢禁止せられてゐる。寛永五年八月廿三日の金澤町中定書に「町中傾城並出合屋堅く御停止之事」とあるのは、その最も古く見えるものである。

デアマリダカ 手餘高 ↓ヒンソンオシタテ 貧村御仕立。
テイガ 汀畫 ↓キタイチャテイガ 北市屋汀畫。
テイキョウイン 貞鏡院 大聖寺藩主第九代前田利之の女で、水野周防守忠順夫人になつた建姫の法號。詳しくは貞鏡院圓覺行達融心大姉。

テイキンシヨウジ 丁金小路 金澤の舊町名。下今町から枯木橋に出る間の小路をいうた。この地に丁金と稱する鼓などの細工人が數代居住した爲の名である。
テイケイザン 帝慶山 金澤郊外春日山をいふ。享保十二年の山上春日社記に「山上者